

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成28年11月15日
タイトル	給食米収穫の喜び！地域との絆、収穫祭！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成28年11月2日（水）福山市立東村小学校全児童44名が、学校農園で栽培された米と地域の方と児童が植えたサツマイモの収穫を祝い、学校給食食材納入グループ「若草会」や日頃学校の運営でお世話になっている方々を招いて収穫祭が開催されましたので取材しました。

5、6年生が若草会の皆さんに教えていただきながら、収穫したサツマイモが入った豚汁を作りました。その他の具材も殆どが若草会の会員が作った野菜です。作り方などを大きな模造紙に書いた物を作ってこれ、みんなで見ながら調理しました。

調理室は出汁のいい香りや新鮮な野菜の香りがして、調理をしていると子ども達が「おなかがすいた」と言っていました。また今年は調理の手伝いに男性2人がおられ、子どもと一緒に野菜を切ったりしておられました。



4班に分かれ約120人前の豚汁を作りました。
子ども達はみんな上手に野菜を切っていて家でもよくお手伝いしているそうです。
沢山の具材を切って、鍋いっぱい豚汁を作りました。豚汁ができると男性陣が熱い鍋をランチルームまで運んでくださいました。

子ども達は、使い終わった調理器具からきれいに洗って片付けて調理が終わると同時に調理台もきれいに片付けられました。

ランチルームで若草会や地域の方、子ども達と約90人が集まり収穫祭が始まりました。子どもと招待者が交互に座るように配席してあり子ども達が配膳をしました。

収穫祭では、まず校長先生から「若草会、老盛会への感謝の気持ちとみんなで作ったサツマイモが今年は豊作だったこと。」が伝えられました。

次に、若草会 ^{すぎはらなおみち} 杉原直道会長より「学校農園を見たら小さな足跡が沢山残っていてみんなで一生懸命稲刈りしたことを思い出して感動しました。」と話されました。

次に、サツマイモの植付けを教えていただいた老盛会の小川鶴夫さんから「サツマイモを植えたことが子ども達のいい思い出になってくれるように、6年生は中学生になっても明るく健やかに成長してほしい。」と話されました。



子ども達に感想を聞くと「お米があまい」「豚汁がおいしい」「大根サラダがからい」と言っていました。

「大根の先の方が入ったんじゃなあ」と話しているとちょうどクイズに「大根のどこが一番からいでしょう」という問題が出て、ラッキーと喜んでいました。



みんなで合掌し食事が始まると「今日だけは、いっぱいおしゃべりしましょう。」と先生が言われ、子ども達と話しながら食事をしました。食事をしながら今日の食材を納入してくださった方の紹介や子ども達からクイズが出され、和気あいあいと新米のご飯と具沢山の豚汁をいただきました。



豚汁の材料で「血や肉になるものを2つ言う」クイズがあり1つは豚肉でもう1つが味噌でした。味噌の原料の大豆は良質なたんぱく質で「畑の肉」と言われると教わりました。サラダには星やハート形のきゅうりがあり女の子は嬉しそうにとっておいて最後にパクっと食べていました。

みんなが食べ終わったころ今日の給食でおいしかったものと理由を聞きました。「みんなで作った豚汁がおいしかった」「新米の味を楽しみにしていました。若草会のみなさんおいしかったです」と発表し、最後に全員でごちそう様の挨拶をしました。子どもを代表して、若草会、老盛会の方に感謝の気持ちが伝えられ収穫祭は終わりました。食べ終わったお膳は、近くに座っている子どもが片付けてくれました。皿や箸をわけてきれいに片づけられていました。



廊下には農業体験の様子が展示してあり地域の皆さんが「子どもの顔が生き生きしとる」「みんなかわいいなあ」と目を細めて見ておられました。帰る際には小学校で育てられた花の苗をお土産にいただきました。

水土里ネット福山は田植えから取材をしてきましたが、収穫祭では子ども達も地域の方々も、その喜びの表情は格別なものでした。

これからも21世紀土地改良区創造運動を通して、子どもと地域の絆を深める取組みに協賛してまいります。